

水稻新品種「ちくし18号」の特性

浜地勇次・今林惣一郎・大里久美・川村富輝・西山 壽¹⁾・吉野 稔²⁾
(福岡県農業総合試験場・¹⁾前福岡県農業総合試験場・²⁾福岡県朝倉地域農業改良普及センター)

Yuji HAMACHI, Souichirou IMABAYASHI, Kumi F. OOSATO Yoshiteru KAWAMURA, Hisashi NISHIYAMA and Minoru YOSHINO : Agronomic Characters of a New Rice Cultivar "CHIKUSHI 18"

現在、福岡県における水稻の熟期が中生の晩～晩生の品種として、「ツクシホマレ」、「ニシホマレ」および「レイホウ」が栽培されている。しかし、これらの品種は食味が不十分で、酒造用かけ米として利用されているにすぎない。このため、これらの品種に替わる良食味品種の育成が強く要望されていた。

そこで、福岡県農業総合試験場では1998年に中生の晩の良食味品種「ちくし18号」を育成したので、本品種の特性を中心に報告する。なお、特性は対象品種を明記した以外はすべて「ツクシホマレ」と比較した。

1. 育成経緯

本品種は1988年8月に福岡県農業総合試験場において、強稈、良質、良食味および白葉枯病抵抗性品種の育成を目標として、「コシヒカリ」と同程度の良食味品種である「南海102号」(後の「ヒノヒカリ」)を母、強稈、良質および白葉枯病抵抗性がやや強の品種である「ヨカミノリ」を父として人工交配を行った組合せに由来する。1989年5～10月にF₁、1990年1～5月にF₂集団を養成した。同年穂系統(F₃)により個体選抜を行い、1991年(F₄)以降は圃場栽培で系統の選抜と固定を図った。

1992年(F₅)は「フ系564」の系統番号で生産力検定予備試験、1993年(F₆)以降は「ちくし18号」の系統名で生産力検定試験、特性検定試験を実施した。さらに、福岡県における奨励品種決定基本調査に供試して、地域適応性を検討した。

2. 形態的特性

稈長はやや長く、穂長はやや短く、穂数はやや少ない中間型である。葉色は同程度、止葉は立ち、草姿は良い。粒着密度はやや密で、稀に短芒がある。ふ先色と穎色は黄白、脱粒性は難である。1穂初数は多く、1次枝梗に着く初数の割合は同程度である。

3. 生態的特性

出穂期および成熟期はいずれも育成地では2日、筑後分場ではそれぞれ4日、3日早く、福岡県および種苗特性分類の暖地の熟期区分ではともに中生の晩に属する梗種である。稈の太さおよび剛さはともに中である。耐倒伏性はやや劣るが、「ヒノヒカリ」より優れる。穂発芽性は中である。

いもち病真性抵抗性遺伝子型はPi-a、Pi-ta²を持つと推定され、圃場抵抗性は検定場所におけるPi-ta²の侵害菌がないか少ないため、判定が困難である。白葉枯病圃場抵抗性は中である。収量性は砂壌土でやや劣るが、埴土では同等かやや優れ、「ヒノヒカリ」よりやや優れる。

4. 品質および食味

玄米の形状および大きさはともに中で、腹白、乳白および心白米の発生は同程度である。玄米の光沢は同程度である。外観品質は同程度の上の下である。玄米千粒重は同程度である。搗精時間はやや長く、適搗精における白米白度、搗精歩合は同程度である。

炊飯米は外観が良く、粘りがあり、食味総合評価は明らかに優れ、「ヒノヒカリ」とほぼ同程度の上の中である。

5. 適応地帯

本品種は「ツクシホマレ」の食味が不十分な点を補い、しかも「ヒノヒカリ」より耐倒伏性や収量性が優れた中生の晩の品種として、暖地の一般平地地および平坦肥沃地に適すると考えられ、特に県内の筑後地域を中心に、「ツクシホマレ」の全部と「ヒノヒカリ」の一部の代替品種として、普及が見込まれる。

6. 栽培上の注意

1) 耐倒伏性はやや強であるが、多肥栽培では食味の低下が懸念されるので避ける。

2) 現在、本品種に対するいもち病の侵害菌が少ないが、今後Pi-ta²の侵害菌の発生に注意し、病害の早期発見と防除に心掛ける。

第1表 「ちくし18号」の特性概要

| 形質 | 品種名 | 試験場所 | | | |
|------------------------|------------------|-------------------------------|-------------|-------------------------------|-------------|
| | | 育成地 | | 筑後分場 | |
| | | ちくし18号 | ツクシホマレ | ちくし18号 | ツクシホマレ |
| 早 晩 | 生 型 | 中生の晩 中間型 | 中生の晩 穂数型 | 中生の晩 中間型 | 中生の晩 穂数型 |
| 出穂期(月・日) | | 8.25 | 8.27 | 9.1 | 9.5 |
| 成熟期(月・日) | | 10.10 | 10.12 | 10.19 | 10.22 |
| 稈 長(cm) | | 80 | 74 | 84 | 80 |
| 穂 長(cm) | | 18.5 | 20.1 | 18.6 | 21.0 |
| 穂 数(本/m ²) | | 359 | 372 | 462 | 473 |
| 耐 倒 伏 性 | | やや強 | 強 | やや強 | 強 |
| 穂 発 芽 性 | | 中 | やや易 | 中 | やや易 |
| 耐 病 性 | 葉いもち (推定遺伝子型) | — (Pi-a, ta ²) | 中 (Pi-a) | — (Pi-a, ta ²) | 中 (Pi-a) |
| | 穂いもち | — | 中 | — | 中 |
| | 白葉枯病 | 中 | やや強 | 中 | やや強 |
| 玄 米 重(kg/10a) | | 607 | 621 | 635 | 621 |
| 同上標準比(%) | | 98 | 100 | 102 | 100 |
| 玄米千粒重(g) | | 24.3 | 24.3 | 23.8 | 23.8 |
| 玄 米 品 質 | | 上 下 | 上 下 | 上 下 | 上 下 |
| 食 味 | | 上 中 | 中 上 | 上 中 | 中 上 |

注) a) 育成地(筑紫野市)、筑後分場(三潴郡)とも1994～1997年の標肥栽培の成績

b) 移植期は育成地: 6月7日～13日、筑後分場: 6月22日～26日